

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		オンライン砺波B		公表日		令和7年2月28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			・ バランスボールに乗って共有スペースを大きく移動してしまうお子さんがいる。バランスボールの使用場所を決め、大きく移動せずすみずみバランスボールの使い方を教えたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・ 学習・タブレット・運動・静養室等、活動に合わせた環境の区別化を行っている。	2階にある当事業所への移動は階段のみという点では、バリアフリーとは言えない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・ 子ども達が帰った後の清掃時に、机、椅子、ロッカー、ドアノブ、その日使用した玩具やタブレットなど子どもや職員が触れた可能性のある場所の消毒を徹底して。また、時間を決めて換気を行っている。 ・ 清掃チェックリストを作成し、清掃もれがないようにしている。	・ 雨天時に来所した子ども達が靴下をぬらすず過ごすための、傘立て、下駄箱、コート掛けの置き場所の工夫等をしたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・ 事業所内には4畳程度の静養室を設置している。気持ちが乱れた時に落ち着く場所、体調不良の際に一時的に休息する場所と活用している。	・ 静養室には子どもの安全面を考慮してドアを取り外している。半面、着替えをする場所ともなっているためプライバシー保護の工夫が必要。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・ 毎日の職員全員によるミーティングで個別支援計画の具体的な課題に向けた前日の支援活動の振り返りを行っている。振り返りの結果を元に支援活動の改善を図っている。また、土曜祝日の教室についての振り返りも職員全員で行い、活動内容の改善を図っている。	・ 短時間で効率的に成果を出す会議運営が必要。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ 保護者向け評価表の結果はもちろん、半年に1度の保護者面談で保護者の意向を確認し、必要に応じた業務改善を行っている。	・ 保護者向け評価の数値結果の掘り下げが必要。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ 毎日の職員全員によるミーティングで職員の意見等を把握する機会を設けている。また、定期的に管理者と職員による個別面談の機会を設けている。	・ 短時間で効率的に成果を出す会議運営が必要。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・ 第三者評価委員会を立ち上げる必要を感じる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・ 富山県・砺波圏域の研修に職員を参加させたり、職場内研修を実施している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ 今年度からの新規事業のため、今年度末までホームページでの掲載の準備を進めている。支援プログラム自体はできているので、保護者には紙ベースで配布済。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・ 半年に1度の割合で、職員全員による個別支援計画の評価会議を行っている。評価会議で子どものアセスメントを行った上で、保護者面談を行い、親のニーズや希望を把握した上で計画を策定している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・ 計画作成に当たっては職員全員による原案会議や中間評価会議を開催し、それぞれから意見を出し合っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・ 支援記録・議事録が計画の支援目標・支援内容に沿った項目になっている。		

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・行動観察した結果を支援記録に記載している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・現在のところ個別支援計画には「本人支援」「家族支援」「移行支援」が具体的な項目に盛り込まれている。「地域支援・地域連携」については具体的な項目として盛り込まれてはいるが、ねらいや支援内容は踏まえて立案している。	・土曜日に行っているイベントの企画・参加枠の工夫によって地域支援・地域連携の具体化していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・平日の活動プログラムはミーティングで話し合っ決めていく。 ・土曜日の教室のプログラムは、2人チームで立案をしている。 ・全員でミーティングを行い、プログラムの作成をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・活動プログラムについては、ミーティングで振り返りを行い、常に改善を図っている。	・習慣化を目標とする取り組みが、固定化と誤解されているように思う。その違いを保護者にも理解してもらえようような取り組みが必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・子どもの状況に応じて、個人ワークと集団活動を具体的な支援方法に取り入れた個別支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎日、支援開始前にミーティングを行い、支援内容や役割分担について確認している。	・短時間で効率的に成果を出す会議運営が必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後に時間を取ることは不可能なので、翌日のミーティングで振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・具体的な支援目標に沿った支援活動の取り組み状況が分かる支援記録の様式にしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・半年に1度の頻度で保護者面談（モニタリング）を行っている。保護者面談で、計画の進捗状況・今後の方向性を保護者に説明し、保護者の意見を受けて、計画を更新している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・毎日のおやつを食べるのか食べないのか判断したり、月に一度の特別おやつの際に2つ以上の選択肢から1つを選んだり自己選択する機会を設けている。 ・デジタルゲームをする際に使用するタブレットは数台の中から自己選択できるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・子どもの状況によっては、保護者・市役所・学校・他に利用している放課後等デイサービスによる関係者会議を設けている。	・保健・医療との連携が課題。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・年度初めに学校訪問をし、下校時間・送迎の待ち合わせ場所・留意点等の情報を共有している。 ・送迎時に学校での様子を聞きだし、施設での様子も共有する。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・当事業所の場合、他の放課後等デイサービスを利用していたり、2年生以降の利用児童が多いため、就学前に利用していた保育園等との情報共有をする必要性があまりないため、行ってはいない。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・当事業所の利用児童が概ね5年生までのため、これまで学校を卒業したり、障害福祉サービス事業所等へ移行した例がない。今後、必要になる機会があれば、保護者の了解を得た範囲での情報の提供はありえる。	
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○				

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		○	・月1回、土曜日に開かれるゲームイベントには兄弟の参加も認めているため、利用児童以外の児童と交流する機会となっている。また、地域の公園遊びに出かけた先で、地域の子も達と鬼ごっこ等をして遊ぶ機会はある。	・土曜日のイベントに地域の子もが参加できる企画が必要。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○	・利用時にはLINEで子どもの活動の様子を写真や文章で知らせている。また、必要に応じて子どもの状況や課題について事業所から知らせる場合もあれば、保護者から寄せられる場合もある。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・毎月土曜日に実施しているゲームイベントは、親子参加となっている。また、毎年親子で参加し、他事業所とも交流がある「ゆるゆる運動会」への参加を呼びかけている。	・保護者のニーズを把握し、必要であれば講座の企画も必要。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	・計画策定前に保護者面談を行い、子どもや家族の意向を確認している。子どもについてはかみ砕いた表現で、どのような取り組みをするかを説明し同意を得ている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○	・計画を作成する前に保護者面談を行い、計画に載せる支援内容についての説明をし同意を得ている。また、計画書にも同意の署名を保護者から得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	・日常的にはLINEで子育ての悩み等の相談に応じている。必要場合は訪問・面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	・現在のところ、保護者会等は組織してはいないが、月に1度、土曜日に行われるゲームイベントには親子参加・兄弟参加を呼びかけており、保護者同士・兄弟同士の交流する機会になっている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○	・毎月のカレンダー形式の行事予定を保護者に配布している。また、毎月イベント案内を配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	・個人情報が含まれる重要な書類を配布する際は職員が必ず二重チェックを行い、間違いがないように徹底している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	・発語のない子どものためにおもちゃの写真を貼ったシートを用意し、どのおもちゃで遊びたいのか意思表示がしやすいようにしたり、色分けをしたりと視覚でわかりやすい工夫がされている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・土曜日のイベントに地域住民の参加を促す企画をしたい。
	非常時	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	・各種マニュアルは策定済で職員には周知しており、訓練も行っている。避難訓練を行った際にはポスターやライン等でその内容等をご家族にも報告している。
47		業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		・BCPの内容や、訓練の様子を保護者に分かりやすく伝える工夫が必要。
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○	・利用前の初期面談の際に、確認している。また、利用中、服薬等の変化があった場合は、事業所にも情報提供するよう保護者に依頼している。	
49		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	・当事業所にはこれまで食物アレルギーのある子どもの利用はない。今後、そのような子どもが利用した場合は医師の指示に基づく対応をする。	

等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・避難訓練や引き渡し訓練時はLINEや掲示物等で周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットがあった際はすぐに報告書にまとめ、ミーティングの際に共有・改善や再発防止のための話し合いが行われている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			